

会 議 録

会議の名称	平成 28 年度 第 6 回茨木市中心市街地活性化協議会
開催日時	平成 29 年 2 月 21 日(火曜日) 開始 10:00 ～ 終了 12:00
開催場所	茨木市役所 南館 6 階 第一会議室
会 長	山野 寿
出席者	〔協議会構成員〕 山野 寿 ((一社)茨木市観光協会 会長) (協議会会長) 木村 正文 (茨木商工会議所 専務理事) (協議会副会長) 鎌谷 博人 (茨木市 都市整備部 部長) (協議会副会長) 山田 久敬 (茨木市商業団体連合会 会長) 斎藤 雅通 (立命館大学 経営学部 教授) 八瀬林 昌雄 (追手門学院大学 研究・社会連携課) <div style="text-align: right;">(以上、計 6 名)</div>
事務局	(一社)茨木市観光協会 小池事務局長 茨木商工会議所 鳥山次長 茨木市 市街地新生課 岸田次長、福田参事、森氏、山根氏、黒葛原氏 商工労政課 徳永課長
議題	1) 場を開く社会実験 2) 計画区域 3) 市民アンケート調査結果 4) 中心市街地活性化の基本方針
配布資料	資料 1) 社会実験実施状況 資料 2) 茨木市中心市街地活性化基本計画区域図 (案) 資料 3) 市民アンケート調査結果 資料 4) 中心市街地活性化基本計画 (案) 抜粋
議 題 の 経 過	
発言者	議題 (案件) ・ 発言内容 ・ 決定事項
1. 議事内容 (1) 場を開く社会実験 事務局 只今から第 6 回茨木市中心市街地活性化協議会を開会する。 開会にあたり、山野会長からご挨拶を頂戴する。 山野会長 (あいさつ) 事務局 本日の出席状況をご報告させて頂く。委員総数 7 名のうち、6 名の委員にご出席頂いており、協議会規約第 10 条第 4 項の規定により、本日の協議会は成立している。 協議会規約第 10 条第 3 項の規定により、本協議会の議長は山野会長であるが、事務局に一任して頂くとのことであるので、市が進行を務めさせて頂く。 事務局 本日の議事は、場を開く社会実験について、計画区域について、市民アンケート調査結果について、中心市街地活性化の基本方針についてである。まずは場を開く社会実験について社会実験実施の報告を事務局より行う。 事務局 (場を開く社会実験についての報告) 事務局 場を開く社会実験についての報告は以上である。報告した内容について、意見等を頂き	

たい。

山野会長 以前、茨木音楽祭でスカイパレットを使ったと聞いたが、それはどのような使い方か。
事務局 大きな音の出ない演奏と、Tシャツやグッズの販売をされたということをお聞きしている。

事務局 以前とあるイベントで演奏を実施したが、周辺のマンションに配慮し、音量を抑え目で演奏したため、集客が思うようにいかなかった。今回の社会実験で集客ができるような工夫を検討できたらと考えている。

山野会長 高槻市のジャズフェスでは全体にフェスの音楽が流れているため、騒音のクレームは何とか説得して頂きたい。

木村副会長 そこまで多くのマンションはあるのか。

事務局 管理者からは、できるだけ演奏を駅通路方向に向けてやって欲しいと言われている。

山野会長 ステージの配置を考える必要がある。3月12日(日)にいばらき駅前コンサートの演奏があるため、その際にステージの向きはどこが良いかなどが把握できるだろう。

事務局 あとは音楽の質や種類にもよる。いばらき駅前コンサートはジャズの演奏になるため、そこまでの苦情は出ないと思われる。例えば、アンプを使ったロック等になるとまた異なる反応になるだろう。

木村副会長 いばらき駅前コンサートの方は今まで何回か演奏されているが、苦情はあるのか。

事務局 苦情はない。演奏が昼間で、時間が短いということもあるだろうが。

山野会長 茨木市民にそのような演奏がまちの祭だという認識をもって頂き、苦情があったとしても少々目をつぶって頂きたい。茨木神社でもあまり大きな鐘を鳴らすと周囲の迷惑になると配慮しているが、その辺の認識を変えていく必要があるだろう。

事務局 手作り市は回数を重ねるごとに店舗数も増加しており、今後も継続していきたいという意見もあるため、定期的に開催することで、多くの集客が期待できると考えている。

事務局 今回、社会実験を実施した期間が12月～3月までという寒い時期であるため、来年度は5月～7月、9月～11月と比較的気候の良い時期で、引き続き開催を予定している。実際に開催してみて市民から意見をよく聞くのは、「出店したいが、イスや机がない」ということである。すなわち備品の用意等が出店のネックになっているため、来年度はその点について市で支援し出店しやすい仕組みづくりに取り組んでいきたい。また、現在は市が窓口を担当しているが、他に受けて頂く仕組みづくりも合わせて考えていく必要がある。

(2) 計画区域

事務局 次に中心市街地活性化基本計画における計画区域について説明を事務局より行う。

事務局 (計画区域についての説明)

事務局 計画区域についての説明は以上である。説明した内容について、意見等を頂きたい。

木村副会長 町丁目界と用途地域の関係を加えたということか。

山田委員 かなり妥当な区域設定であると感じる。

(3) 市民アンケート調査結果

- 事務局 次に市民アンケート調査結果について説明を事務局より行う。
- 事務局 (市民アンケート調査結果についての説明)
- 事務局 市民アンケート調査結果についての説明は以上である。説明した内容について、意見等を頂きたい。
- 山野会長 「中心市街地に対する評価」で、50代以上が「活気が無い」と答えており、20代以下の若者が「活気がある」と感じている要因は何か。高齢者はまちに関心がないということか。
- 事務局 高齢者は多少外出しづらくなっている部分もあり、駐車場・駐輪場が不便で中心市街地まで行きにくいイメージがついてしまい、新しい店舗ができて情報が入りにくい。その一方で若者世代はスマートフォンもあり、自分の足でも広く動けるため、様々な情報を仕入れやすいため、このように異なる結果になったのではと推測している。
- 事務局 20歳未満は生きている期間が短い、高齢者は昔の茨木市も知っているため、「昔はこうだった」という思い出があるだろう。「現在と昔を比べたら活気が無い」と高齢者ほど感じているのではないか。
- 事務局 特に今の若者世代は「さとり世代」と言われ、バブル崩壊後の厳しい時代を生きてきて、人生を悟っていると表現されたりもする。そういう世代からの視点では、茨木市の中心市部は割と賑わっていると見えるのではないか。
- 一方で高齢者は、高度経済成長時代を経験しており、歩けないほど人で溢れている光景を目にしている。そういった意味では、一番良い時期と比べて活気が減ったということではないか。
- 木村副会長 昔の阪急本通商店街は、平日でも1日1万人を超える人が訪れており歩行が困難であった。
- 事務局 高齢者は昔の東芝やパナソニックなどの大企業があり、人の行き来があったという市内のイメージが強く残っているだろう。
- 事務局 当時は大企業を通じた市民の交流もあったが、現在は市内で大学が開学したとしても、若者世代と高齢者の交流はそこまでないと感じる。
- 事務局 「中心市街地に欲しい公共施設」というところで、一番要望が多いのは駐車場であるが、二番目が観光案内所である。なぜ観光案内所がこんなにも多いのか。
- 事務局 昨年10月に市の広報誌にハガキを載せて、ハガキで市民から意見を送って頂くという事業を実施したところ、高齢者から観光案内所をつくってほしいという要望がいくつか見受けられた。
- 意見の具体的な内容は、「茨木市は良いまちであるから、もっと駅を通行する人に向けて茨木の良さをアピールする場をつくってほしい」という意見である。
- 自分のための情報収集というより、自分以外の人にもっと情報を発信して欲しいとのことであった。
- 事務局 バスの案内所が駅にあったらいいのかもしれない。
- 事務局 アンケートの回答が選択形式であるため、選択肢の中から、茨木市に不足していることを考えると、観光案内所と考えたのではないか。

- 木村副会長 選択肢には「図書館」もあるが、これでは本を読みたいのか、勉強がしたくて図書館を欲しているのかが把握できない。「何のために」という回答欄を入れておくべきであった。
- 事務局 本アンケート結果から、昼間に中心市街地に来られるのは主婦や高齢者層が主であり、ほぼ毎日来訪するが、目的が済むとすぐ帰っていると推測できる。
もっと消費を喚起するような魅力ある店舗を増やしていくことが計画の目標にも繋がっていくのではないかと考える。
- 山野会長 確かに、「〇〇の△△が欲しいから〇〇へ行ってすぐに帰る」というパターンが多い。ふらっと散策できるような、他の魅力ある商品とかの開発、営業をする必要がある。また中心市街地には車で来させるのか、それとも、車ではなくゆったりとした歩行のまちを目指すのか。
- 事務局 駐車場・駐輪場整備の要望が多いが、やはり駐車場は少ないのだろうか。
- 山野会長 充実していると感じている。中心市街地を巡回するようなバス等の公共交通を展開しなければ、いつまでも車が必要なイメージが払拭できない。
- 木村副会長 アンケートの回答では「ほしい施設」と「期待するイメージ」が相反している。「ゆったりとした散歩気分」と「高級感」というイメージに、駐輪場・駐車場は必要だろうか。また無料の駐車場が欲しいのか、とりあえず数として駐輪場・駐輪場が欲しいのか。
- 山野会長 駐車場・駐輪場を増やすと、ゆったりと歩きにくい街になってしまう。
- 事務局 中心市街地に来訪する手段としては自動車・自転車で、来訪してからは徒歩という考えではないか。来訪手段に対して、公共交通を充実させるのか、駐車場・駐輪場を整備するのかなど考える必要がある。
- 木村副会長 市内山間、北部から来訪する市民は、駅に車を駐車して遊びたいとか、料金が高いから無料にしてほしいとか考えている可能性もある。
- 事務局 自由回答を見ると、無料の駐車場・駐輪場を求めている意見が目立つ。特に、大型のショッピングセンターでは、少しの買い物で1,2時間の駐車がすぐ無料になるため、わざわざ商店街まで来て、駐車料金を支払い、買い物をすることは抵抗があるのかもしれない。
- 木村副会長 無料にしたところで、車で来訪する市民が本当に商店街に行くのだろうか。
- 事務局 アンケート結果からも、ゆったりとした空間や公共空間は求められており、公共空間を活用して欲しいというニーズはある。
- 事務局 最近自転車レーンが増えているが、駐輪場も含めて本計画の中で議論しても良いのか。
- 鎌谷副会長 全て含んで頂いて良いだろう。現在も自転車レーンの整備について対応中であり、そのような議論も協議会でして頂いて構わない。
- 事務局 自転車レーンは、自転車に乗っている方から観光の視点でも喜ばれている。
- 事務局 自転車と接触して危険なため、現在の歩道が歩きにくいという意見も多数あり今後も自転車レーンの整備は必要である。
- 鎌谷副会長 本計画ではJRと阪急を結ぶような区域になっているが、各エリアにおける魅力の差異を強く出していくことも大事である。「JRは賑わい」「阪急は高級感」みたいなメリハ

リのある作り方をしていく必要がある。エリアごとに特徴があるような位置づけの計画にしていきたい。

(4) 中心市街地活性化の基本方針

事務局 最後に中心市街地の基本方針について説明を事務局より行う。

事務局 (中心市街地の基本方針についての説明)

事務局 中心市街地の基本方針についての説明は以上である。説明した内容について、意見等を頂きたい。

木村副会長 目標3の指標として、「大学と連携した取り組みの件数」とあるが、大学がどこと連携した取り組みか。また大学が独自で実施した取り組みも入れるのか、それは可能なのか。

事務局 可能かどうかは検証する必要がある。

木村副会長 大学のセミナーは多数行っているが、それも連携したことになるのか。

事務局 市との連携だけではなく、学生がボランティアなど地域に入って共同で行っている活動の件数も含んでいきたい。

計画の方針にもあるように大学生が茨木市で学び、就職するときに茨木市に住みたいと考えてもらえるようにしたい。そのためには、地域と関わりを持った学生ほど市への愛着を持つ傾向にあるため、学生が地域と行ったボランティア等の件数も入れていきたい。

事務局 大学が、地域と学生がやっている活動を把握することはできるか。

齋藤委員 部活の取り組みデータは把握できるがサークルは困難である。

事務局 大学にもヒアリングをさせて頂きながら、どういったデータを取られているかということも踏まえ、指標を検証していきたい。

山野会長 大学だけでなく、一般の方による提案公募型の活動も併せて調査すれば良いだろう。またそれに対して市としても予算を増やしていくような取り組みをしなければ、提案公募型の案件も増えてこない。

市民活動センターでの取り組みで、大学だけでなく様々な市民団体が文化力の向上のために活動しているため、そのような活動もカウントしていけたらと考えている。

齋藤委員 大学との連携を一つ一つ調査し把握していく必要はあるが、市の働きかけに対して学生がどれだけ応募してきているかを把握したほうが分かりやすいではないか。

その場合、軸となる取り組みは何か、指標になるようなものは何か、経年変化で見るとするには、そのようなものが必要になる。

多様な活動を組み合わせただけでなく、大学との連携において行政からの何が要因で学生が参加をしているのか、またそれら指標の取り方については考えて頂く必要がある。また川端康成の記念館など、総合的な文化力を中心市街地活性化に活かすためには、どうすべきか考えて頂きたい。

事務局 現在、中央公園等の各施設の利用状況も把握している状況である。データによってはこれも指標として使えると考えている。

木村副会長 目標3に関しては、大学との連携ではない、市民の取り組みの件数はカウントしないということか。

事務局 計画の区域に大学が含まれているため、現在はその形で進めているが確定ではない。全

体の文化を取り入れる可能性もある。

事務局 全体の取り組み件数であれば【目標2】「公共空間の利用数」になるのではないか。

事務局 文化力の向上といったところで、大学だけではなしに市民の取り組みの件数も入れてはどうか。

事務局 市民の提案公募型の取組みについては補助金を3年で打ち切っているため、計画期間と整合性がない。

山野会長 補助金を3年で打ち切ることは見直すべきではないか。3年間で自立できるかという
と、そのような状況ではないように感じる。

事務局 目標1の指標「サービス業事業所数（小売を含むサービス業全般）」はこれで良いか。
チェーン店も入ってしまうため、その件についてはどうであるか。

木村副会長 飲食店が圧倒的に少ないため、サービス業事業所数を増やすのも指標の一つになるだろ
う。中心市街地に飲食店を充実させることでゆっくりと散歩をしながら食事するという
ことも可能になる。

多様な店舗が育ってくると、そこを目的に来訪する市民も出てくるだろう。飲食の出店
のためにオーナーが空き店舗を貸してくれるかという問題もあるが。

(5) 計画の数値目標

事務局 補足で計画の数値目標について説明を事務局より行う。

事務局 (数値目標についての説明)

事務局 数値目標についての説明は以上である。説明した内容について、意見等を頂きたい。

事務局 数値目標を達成するために具体的にどのような取り組みをしていくのか考える必要が
ある。現在大きく減少しているのは小売業・飲食サービス業である。

事務局 特に小売業はかなり減少している。他自治体の計画を見ると、商業統計ベースで小売業
の数値を採用することが非常に多いが、それだとかなり厳しい。一般の市民の方がイメ
ージしている商業とのズレが生じる。物販だけを求めているわけではないと思うので、
商業の質をしっかりと書いて、飲食も含む商業の質で街の魅力を高めていくということ
を掲げて、なおかつ、小さくても魅力のあるものを集積させていくというイメージで、事
業所数をあえて指標とするのがいいと考える。

木村副会長 今後、物販はさらに減少する傾向にあるため、飲食を含むサービス業が、まちにとって
どれだけのサービスが提供できるかが重要である。

昔、商工会議所では、飲食部会と商業部会を分けていたが、現在は合同である。飲食を
含むサービス業とした方が書きやすい。

齋藤委員 物販のターゲットを「主婦、高齢者」としてもターゲットのニーズが様々であり、ライ
フスタイル、購買力なども大きく異なる。そのためターゲットを具体化し、ニーズはど
ういうものかを細かく把握する必要がある。

物販は単なるモノではなく付加価値を売るのがこれからの時代である。大きな売り上げ
はなくとも、小さくても魅力のある店舗が必要になるだろう。

事務局 本アンケート結果から、70歳代が何を求めているのかは把握できるか。細かいニーズ
を示すべき。

事務局 傾向は見るのが可能である。

- 事務局 細かいところにまで踏み込んで、どういう人にどういうニーズがあるのかを分析できるのであれば提示して頂いて、どこを狙っていくのかまで教えて頂きたい。
- 事務局 イメージとして、そういうニーズを提示させて頂く。また施策として、新規出店のハードルを下げ、小さくてもニーズに合ったサービスの展開を支援する。
今後は駅前再整備を控えているため、その中でエリアごとのニーズに合わせてテナントリーシングをして頂くことも必要である。また市民会館の跡地の件についても同様である。
- 事務局 現時点でどのような施策が可能かということは断言できないが、何か考えていかなければ目標達成が困難になる。
- 事務局 新規出店のハードルを下げるとなると、市の施策だけでは困難であるため、商工会議所や商店街、店舗オーナーへのアプローチや不動産事業者の協力も必要になってくる。各自の役割を考えながら進めていく必要がある。
- 事務局 数値目標について、市民が茨木市で購入していない現状もあるため、消費金額や商業施設の床面積などはどうか。
- 事務局 その数値目標を達成するためには大型店が出店するなどがなければ厳しいだろう。本計画で実施したい事業に最も合致するのが事業者数であると考え。
また売り場面積が大きくなり販売額が下がるという全体的な傾向があり、中心市街地でそれをやるイメージではない。
魅力ある店舗は、一店舗では販売額が大幅に増加することはないため、店舗数を増やして魅力を向上させたいというシナリオである。
- 事務局 公共空間の社会実験では商売をしたい市民が次のステップに上がるきっかけとするような意図もあるため、参加した市民が次に店舗を出したいと考えた際に、どう施策として支援するかは非常に重要である。
また公共空間を開くというのも、単にイベントを全て許可するのではなく、商売の試しに近い企画を検討して頂ければ、数値目標の達成に近づいていくのではないかと。
異なる市民が何回も同じようなイベントを開催しては意味が薄いため、イベントで集客だけを図るのではなく、そこから市民をどう巣立たせるかを主催者とも考えていかなければならない。
- 事務局 管理部局から、公共空間で継続して商売を行っている市民と、賃料を支払い、店舗を借りて商売している市民とでは不公平だろうという意見もあるため、その辺も含めて考えていきたい。
- 事務局 最初のハードルを下げる一方で、少しずつハードルを上げていく必要もある。
- 事務局 来週 2 月 27 日（月）に現在考えている目標や将来像について内閣府までヒアリングに行く。本日も指摘頂いた内容について修正し、また内閣府で指摘される内容を次回の協議会で検討したいと考えている。
本日も内閣府で指摘された内容について、実際にどのような施策を行っていくかは次回で提案するため、改めてご意見を頂きたい。
- 事務局 委員の方々には長時間に渡り議事運営にご協力頂き、お礼申し上げます。次回の会議の日程等につきましては、決まり次第事務局より連絡させて頂く。
以上で、第 6 回茨木市中心市街地活性化協議会を閉会する。

(12時00分閉会)

以上